

グローバルドライブ (年1回決算型) 限定為替ヘッジ

追加型投信／内外／資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「グローバルドライブ (年1回決算型) 限定為替ヘッジ」は、2019年2月18日に第5期決算を行いました。

当ファンドは、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。実質外貨建資産については、原則として米ドル売り／円買いの為替取引を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年2月20日～2019年2月18日

第5期	決算日：2019年2月18日	
第5期末 (2019年2月18日)	基準価額	10,219円
	純資産総額	320百万円
第5期	騰落率	△7.0%
	分配金合計	0円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書 (全体版) を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書 (全体版) は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

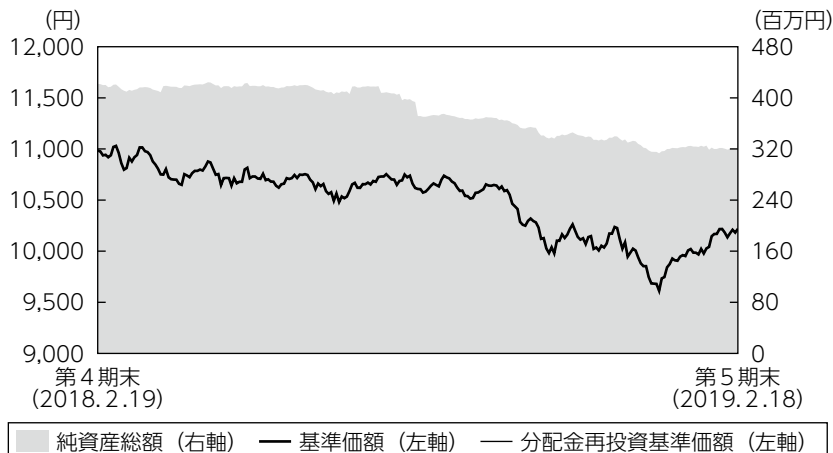
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第5期首：10,984円
 第5期末：10,219円
 (既払分配金0円)
 騰落率：△7.0%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

グローバルドライブ・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX」（以下、「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建て投資証券に実質的な投資を行います。補助的な位置付けとして、短期米ドル建債券などを主要投資対象とする上場投資信託証券（以下、「短期米ドル債ETF」といいます。）にも、マザーファンドを通じて実質的な投資を行います。また、実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。

期首10,984円でスタートした基準価額は、2018年2月28日に期中高値11,330円を付けた後下落に転じ、2018年12月28日に9,613円の期中安値を付け、期末は10,219円となりました。

当期はマザーファンドが投資しているアロケーション・ファンド（分配金込み）が2.9%下落したのに加え、当ファンドで実施している米ドル売り／円買いの為替取引コスト、および信託報酬の支払いなどがマイナス要因となり、基準価額は7.0%下落しました。

1 万口当たりの費用明細

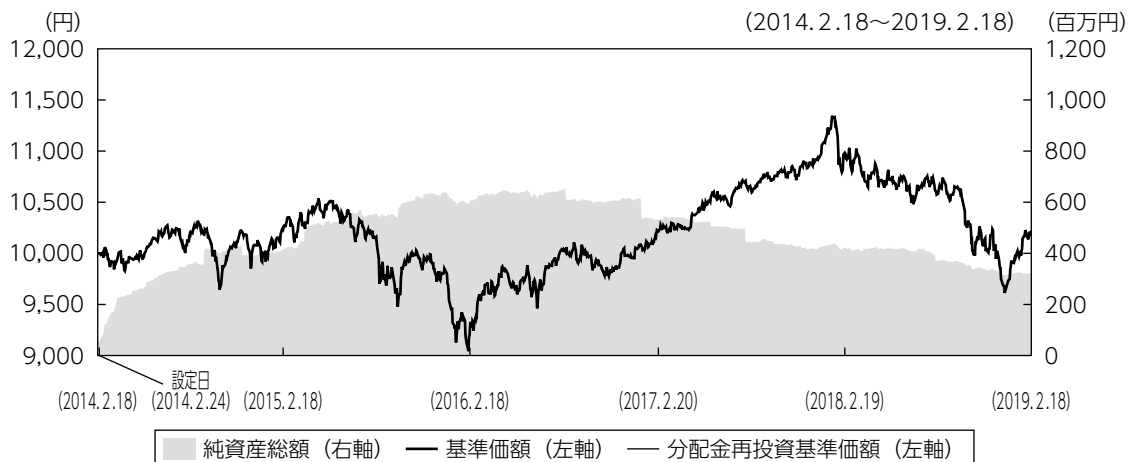
項目	当期		項目の概要
	(2018年2月20日 ～2019年2月18日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	212円	2.025%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,454円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(129)	(1.239)	
(販売会社)	(79)	(0.754)	
(受託会社)	(3)	(0.032)	
(b) その他費用	1	0.007	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用
(保管費用)	(0)	(0.001)	
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(0)	(0.003)	
合計	213	2.032	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の基準価額に合わせて指数化しています。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示してあります。

	2014年2月24日 設定日	2015年2月18日 決算日	2016年2月18日 決算日	2017年2月20日 決算日	2018年2月19日 決算日	2019年2月18日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,000	10,235	9,268	10,214	10,984	10,219
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	2.4	△9.4	10.2	7.5	△7.0
純資産総額 (百万円)	57	414	605	531	421	320

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年2月18日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注4) マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定してありません。

投資環境

● 米国株式市場

米国株式市場は、期初、トランプ大統領から鉄鋼やアルミニウムに輸入制限をかける方針が発表され、貿易摩擦懸念が広がり下げ局面でしたが、4月以降、中国が輸入を拡大させる方針を発表し、貿易摩擦への懸念が一時的に後退したこと、および主要企業から好調な業績が発表されたことなどから持ち直し、上昇に転じました。しかし、米長期金利が上昇し始めた10月以降、企業業績への警戒感、米中貿易摩擦懸念の高まりなどから下落傾向となりました。11月にはパウエルF R B（米国連邦準備制度理事会）議長から政策金利について、中立とされるレンジよりも「わずかに下回る」水準にある（利上げの余地は小さい）とのコメントが出たことで堅調さを取り戻す局面もありました。12月には従前の市場予想どおり利上げが決定され、さらに2019年の利上げ見通しが下方修正されたにもかかわらず、投資家心理悪化に歯止めがかからず、大幅下落しました。年明け後は、パウエルF R B議長が利上げに慎重な見通しを示したことなどから、自律反発局面を迎えました。

こうした状況のもと、期末における米国株式市場は、期首と比べて上昇しました。

● 欧州株式市場

欧州株式市場は、期初、一部企業の好調な業績、原油価格の上昇などから持ち直す局面もありましたが、米国の欧州車に対する課税賦課問題、イタリアやドイツの政局混迷などが懸念材料となり、もみあいでの推移となりました。7月には、ドイツでメルケル政権が難民の流入抑制策に合意し政権が安定したほか、ユンケル欧州委員長とトランプ大統領との会談が成功裏に終わるなど、市場にプラスとなる要因から持ち直す局面もありました。しかし、8月以降、イタリアの財政問題やブレグジット（英国の欧州連合離脱）などの諸問題に注目が集まったことで下落傾向となり、12月には、米国発の株安に引きずられる形で大きく下落しました。年明け以降、米国株反転を追い風に反発局面を迎えました。

こうした状況のもと、期末における欧州株式市場は、期首と比べて下落しました。

● 国内株式市場

国内株式市場は、もみあいでしたが、9月に米国の対中追加関税への警戒感や北海道を襲った強い地震の影響などから一時的に軟調となった後、その後発表された米国による対中追加関税が当初見込まれていた税率よりも低率だったことなどから中国経済への悪影響や対立激化懸念が後退するとの観測が広がり、大幅な上昇に転じました。しかし、10月以降、原油安や米中貿易紛争などの要因から弱含みであったところに米国株の急落に伴う海外投資家からの売りが急増し、反対に大きく下落する展開となりました。年明け以降、米国株反転を追い風に反発局面を迎えました。

こうした状況のもと、期末における国内株式市場は、期首と比べて下落しました。

● 米国債券市場

米国債券市場では、期初、良好な経済指標や原油高などを受け利回りが上昇、10年国債利回りは一時3.1%台を付けました。6月に入って、F R Bが事前予想通りの利上げを決定し目先の材料出尽くし感が広がったことに加えて、E C B（欧州中央銀行）の利上げに対する慎重姿勢が伝わり利回り上昇圧力

は落ち着くと2.8～3.0%のレンジを形成しました。10月にかけて賃金上昇率の高まりなどを受けて長期国債利回りが上昇した後、世界景気の減速懸念や米国当局の利上げペース鈍化観測を背景に長期国債利回りは低下に転じました。12月には、株式市場の軟化、政府機関の一部閉鎖や国防長官の辞任表明といった政治リスクなどが嫌気され、長期国債利回りはさらに低下しました。年明け後、パウエルFRB議長が利上げに慎重な見方を示したことで、低位もみあいとなりました。

こうした状況のもと、期首に2.8%台後半でスタートした米国10年国債利回りは期末に2.6%台半ばとなりました。

● 欧州債券市場

欧州債券市場では、2018年3月のECB理事会後のドラギ総裁会見でインフレ見通しに対して慎重な姿勢を維持する旨の発言から、金融政策の正常化観測が後退し、ドイツ国債を中心に利回りは低下基調となりました。12月には、イタリア財政規律を巡る懸念は緩和されたものの、ブレグジットに対する先行き不透明感などからドイツを中心に長期国債利回りはさらに低下しました。

こうした状況のもと、ドイツ10年国債利回りは利回り低下（価格は上昇）、イタリアなど政情不安が発生した地域の10年国債利回りは上昇しました。

● 外国為替市場

米国の好調な経済を背景とした金利上昇圧力や、ECBによる量的緩和政策の終了時期への思惑など、円安となる材料から、2018年4月以降は円安局面となりました。加えて、10月にかけて対中追加関税への懸念が薄れたことからリスク選好の改善が続くとともに米国長期国債利回りが上昇傾向で推移したこともあり、米ドル/円は堅調で推移しました。しかし、12月以降、世界的な株安や景気減速を巡る懸念、米国政府機関の一部閉鎖など米国の政治動向への不安感から、円買い圧力が強まりました。ユーロについて、イタリアの財政規律に対する姿勢や、英国の欧州連合離脱交渉の進展などで上下し、結局、対円、対米ドルとも弱含みとなりました。期首1米ドル=106円台前半でスタートした米ドル/円相場は110円台半ばで、1ユーロ=132円台前半でスタートしたユーロ/円は124円台後半で期末を迎えました。

■ ポートフォリオについて

● 当ファンド

マザーファンドへの投資を通じてアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、期末の実質組入比率を97.0%としました。また、マザーファンドを通じた短期米ドル債ETFの実質組入比率を期末時点で0.7%としました。また、米ドル売り/円買いの為替取引を行い、米ドル/円相場の変動による影響の軽減を図りました。その結果、10,984円でスタートした基準価額は10,219円で期末を迎えました。

●グローバルドライブ・マザーファンド

主としてアロケーション・ファンドに投資を行います。また、補助的な位置付けとして、短期米ドル債ETFにも投資を行います。なお、外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて為替ヘッジを行いません。

アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、期末の組入比率を98.1%としました。また、短期米ドル債ETFの組入比率を期末時点で0.7%としました。その結果、期首12,856円であった基準価額は12,984円で期末を迎えました。

[アロケーション・ファンドの運用状況]

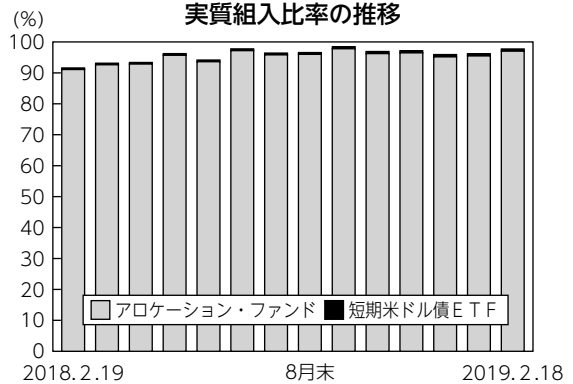
(2018年1月末～2019年1月末の運用経過)

世界各国のさまざまな資産（株式、債券など）、国・地域、セクターなどから、投資魅力が高いと判断される資産に分散投資を行いました。また、中長期的なトータルリターンを最大化を目指すため、投資環境に応じて株式や債券などの組入比率を機動的に変更しました。

2018年1月末と2019年1月末とのポートフォリオ比較では、北米地域および新興国の株式組入比率を引き上げ、欧州地域および日本は引き下げています。株式全体の組入比率は2018年1月末の60.5%から2019年1月末の57.3%に引き下げ、セクター別ではコミュニケーション・サービス、ヘルスケア、エネルギーを積極的に組入れる一方、情報技術の組入れを低下させました。

債券部門については、全体の組入比率を2018年1月末の26.4%から2019年1月末の29.3%と増加させています。米国国債の魅力的な利回りを評価し、北米地域の組入比率を引き上げる一方、投資魅力の乏しい新興国、日本の債券組入比率は引き下げました。

コモディティでは、リスク管理の観点から年末にかけての価格調整局面で金への組入を一部削減しました。とはいえ、世界中で実質金利が低水準でとどまっている環境では特に、世界の株式市場と相関を持たない金はポートフォリオにおいて分散機能を果たします。商品関連ポジションは2018年1月末の4.8%から2019年1月末に2.8%へ引き下げています。



ベンチマークとの差異について

マザーファンドへの投資を通じて、世界各国のさまざまな資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。したがって、ベンチマークは設定していないため、グラフは掲載しておりません。

分配金

収益分配金につきましては基準価額水準・市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第5期
	2018年2月20日 ～2019年2月18日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	1,017円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続きマザーファンドを通じたアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

また、ヘッジ比率を高位に維持し、米ドル建て資産に対する為替変動リスクを軽減するよう調整します。

●グローバルドライブ・マザーファンド

引き続き、アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

お知らせ

■金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2に規定する信用リスクを適正に管理する方法について、その整備を行うため、約款に所要の変更を行いました。

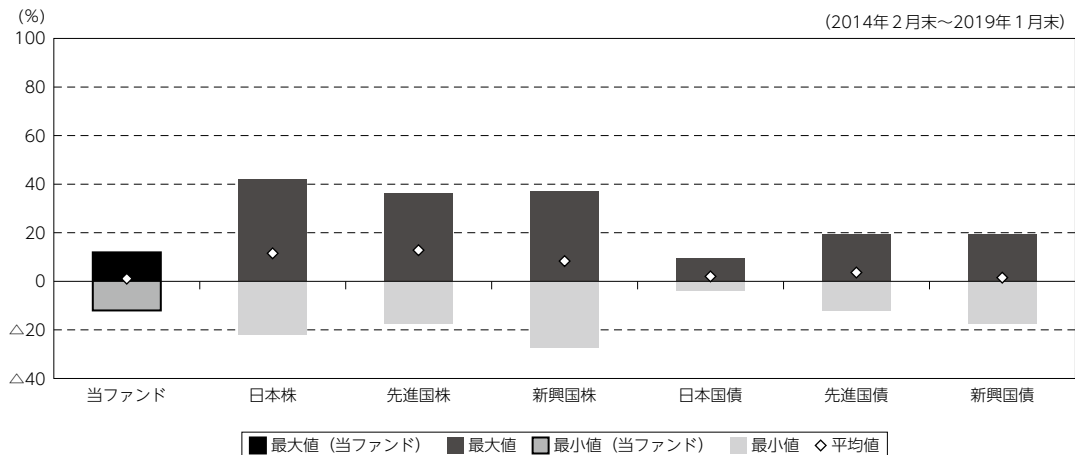
なお、上記約款変更により商品としての基本的な性格が変わるものではありません。

(変更年月日 2018年11月20日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2014年2月24日から2024年2月19日まで。	
運用方針	投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	グローバルドライブ (年1回決算型) 限定為替ヘッジ	グローバルドライブ・マザーファンド受益証券。
	グローバルドライブ・ マザーファンド	投資信託証券。
運用方法	グローバルドライブ・マザーファンドへの投資を通じて、主としてブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX（以下「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券に実質的な投資を行い、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得を目指します。加えて、短期米ドル建債券等を主要投資対象とする上場投資信託証券にも、実質的な投資を行います。アロケーション・ファンドの実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.9	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△12.0	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	1.1	11.5	12.8	8.3	2.0	3.6	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年2月から2019年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2015年2月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年2月18日現在）

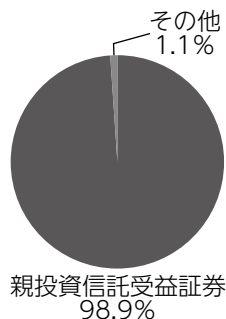
◆組入ファンド等

	第5期末
	2019年2月18日
グローバルドライブ・マザーファンド	98.9%
組入銘柄数	1銘柄

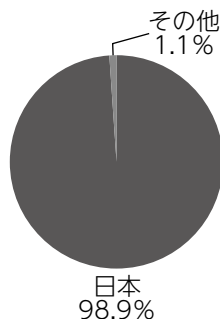
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

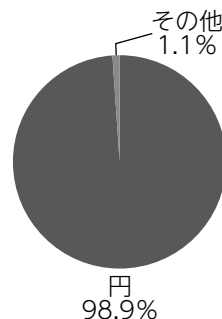
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

(注5) 実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り/円買いの為替取引を行っています。

純資産等

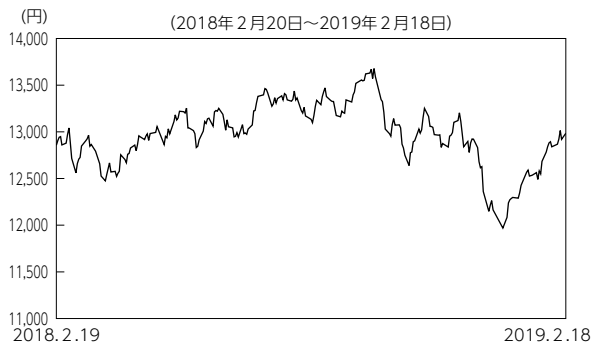
項目	第5期末
	2019年2月18日
純資産総額	320,650,104円
受益権総口数	313,776,430口
1万口当たり基準価額	10,219円

(注) 当期中における追加設定元本額は30,227,587円、同解約元本額は100,388,376円です。

組入ファンドの概要

[グローバルドライブ・マザーファンド]

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2018年2月20日～2019年2月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用) (その他)	0円 (0) (0)	0.001% (0.001) (0.000)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、12,943円です。

(注1) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

◆組入上位10銘柄

(2019年2月18日現在)

	銘柄名	業種／種類別	通貨	国（地域）	比率
1	ISHARES SHORT TREASURY BOND ETF	投資信託証券	米ドル	アメリカ	0.7%
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

(注3) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

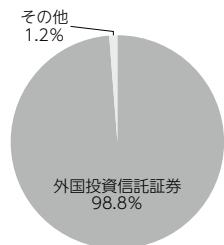
◆組入上位ファンド

銘柄名	当期
ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX米ドル建投資証券	98.1%
組入銘柄数	1銘柄

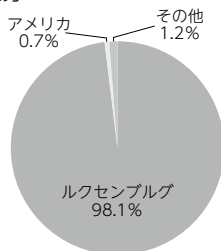
(注1) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

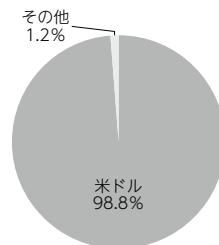
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

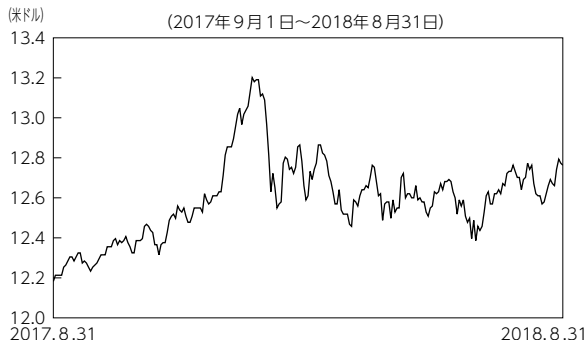
(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

——<ご参考> ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX米ドル建投資証券——

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2017年9月1日~2018年8月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

◆組入上位10銘柄

(2018年8月31日現在)

	銘柄名	業種/種別等	国(地域)	通貨	比率
					%
1	TREASURY NOTE (OLD) 2.75 07/31/2023	国債	アメリカ	米ドル	5.1
2	TREASURY NOTE (2OLD) 2.625 06/30/2023	国債	アメリカ	米ドル	4.3
3	TREASURY NOTE (OLD) 2.875 07/31/2025	国債	アメリカ	米ドル	3.1
4	TREASURY NOTE 2.875 05/31/2025	国債	アメリカ	米ドル	2.0
5	TREASURY NOTE (2OLD) 2.5 06/30/2020	国債	アメリカ	米ドル	2.0
6	APPLE INC	情報技術	アメリカ	米ドル	1.9
7	TREASURY NOTE 2.75 04/30/2023	国債	アメリカ	米ドル	1.7
8	ALPHABET INC CLASS C	情報技術	アメリカ	米ドル	1.6
9	MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ	米ドル	1.6
10	TREASURY NOTE (OTR) 2.875 08/15/2028	国債	アメリカ	米ドル	1.3
組入銘柄数			740銘柄		

(注1) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。

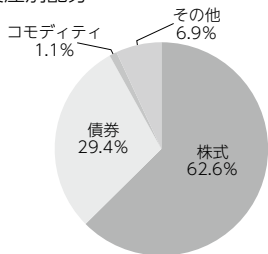
(注2) 「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。

(注3) 組入有価証券に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載してあります。

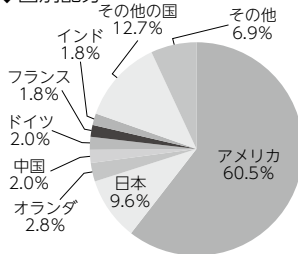
(注4) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注5) 上記の表は、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

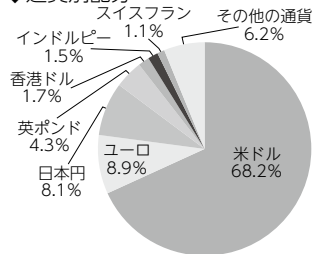
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注2) 「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注4) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。

(注5) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

(注6) 上記のグラフは、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。